

英虞湾自然再生協議会（仮称）設立趣意書（案）

英虞湾自然再生協議会準備会

志摩市長 竹内千尋

三重県科学技術振興センター所長 高橋陽一

三重大学生物資源学部教授 前川行幸

四日市大学環境情報学部教授 千葉 賢

志摩市は、黒潮の洗う太平洋から波静かな英虞湾、的矢湾まで、変化に富んだ海に恵まれています。万葉の昔から「御食つ国」と呼ばれたように、志摩に暮らす私たちの祖先は、代々これらの海の恵みを生活の糧とし、海と共生してきました。特に20世紀に入り真珠養殖の技術が確立されると、高い生産力を持つ英虞湾は真珠養殖漁場として非常に高度に利用されるようになり、「真珠のふるさと」として志摩の文化、経済を支える重要な基盤としての役割を果たし、英虞湾から生み出される真珠は、かつて御木本翁が宣言したように、女性の憧れとして広く世界中に知られるようになりました。

しかし、近年の英虞湾は社会情勢の変化とともに環境が大きく変化し、酸素の欠乏や赤潮の発生などによる漁業被害が毎年のように発生するようになりました。本来、英虞湾が持っているはずの生産力の低下と環境ならびに生態系の劣化は、単に真珠養殖業への影響にとどまらず、関連産業を含めた地域経済に大きな影を落とし、伊勢志摩国立公園の中核地域にとっての大きな問題となっています。英虞湾の美しい姿と豊かな生産力を、私たちの子どもや孫の世代にまで残していくことは、今の時代に生きる我々の義務であり、将来に向けた早急な英虞湾の環境再生と維持の取り組みが必要です。

幸い英虞湾では、古くから三重県水産試験場（現：三重県科学技術振興センター水産研究部）や国立真珠研究所（現：独立行政法人養殖研究所）を始めとする研究機関が漁場環境問題の解決に取り組み、多くの知見や問題解決に向けた方向性が示唆されています。また、平成15年から始まった地域結集型共同研究事業では「英虞湾再生プロジェクト」として英虞湾だけでなく周辺の陸域も含めた包括的な英虞湾の環境再生に向けた研究が行われました。公共事業としての下水道や合併処理浄化槽の普及といった生活排水処理の取り組みや、住民団体等による種々の環境再生に向けた取り組みも活発に行われています。

私たちは、こうした多様な活動をより有効に相乗的に機能させるため、地域住民と行政、研究者等が、これまでに蓄積された科学的な研究成果を利用しながら、将来に向けた英虞湾の環境再生のあり方について幅広い視点から協議していくことが必要と考え、自然再生推進法に基づく英虞湾自然再生協議会（仮称）を設立したいと考えています。

英虞湾自然再生協議会（仮称）では環境共生と地域共生のあり方も大きなテーマとなる予定です。環境共生は生物資源の再生と生物多様性の回復を通じて豊かな海を実現し、地域共生は地域の歴史・文化や自然環境に合った快適で暮らしやすい地域づくりをめざす考え方ですが、英虞湾は21世紀の大きなテーマである環境共生と地域共生に相応しい十分な条件を備えていると考えられますので、関係各位のご理解とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。